長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2023 MARCH VOL.411

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



令和4年度第51期臨床研修医修了式が3月23日（木）に執り行われました。
臨床研修修了おめでとうございます！！

臨床研究センター長就任のご挨拶
臨床研究センター長　田川 努

当院のプロフェッショナルを紹介します!
Vol.1 大石 景子さん

臨床研修終了報告

TOPICS
・定年退職を迎えて
・医師人事異動（転出）
・QC受賞報告

第8回市民公開講座を開催しました

院内さるく Vol.4総合情報センター

看護部だより Vol.49

医療相談支援センターからのお知らせ

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

臨床研究センター長 就任のご挨拶

田川　努



1つの症例から始る臨床研究

2023年1月1日付で臨床研究センター長を拝命した呼吸器外科の田川 努です。

このように重責ある仕事をさせていただけるチャンスをいただいたことは、大変名誉な事で大きな喜びです。八橋 弘院長と江﨑宏典前院長、ならびに皆様に心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

臨床研究センターは、全国に140ある国立病院機構病院のうち10カ所のみに設置されている臨床研究を行う拠点で、九州では九州医療センター、九州がんセンターと当院にしかありません。

すでに2か月が過ぎましたが、倫理審査委員会や院内臨床研究の報告書や発表会で感じることは、長崎医療センターの皆さんの臨床研究への熱意とレベルの高さです。臨床研究や治験の積極的推進という病院の歴代幹部先生方の方針と、各部署所属長の適切な教育と指導の成果だと拝察します。

臨床研究センター長としては、皆様の臨床研究のお役にたつように、よりよい環境作りのお手伝いができればと考えます。経験だけの臨床で終わることなく、臨床を研究に発展させ、論理的な考えと手法を身に着け、学会発表や論文にすることの充実感、喜び、満足感を味わっていただき、活力ある臨床研究病院にできればと考えます。

私は医師になって38年が過ぎました。現役の時間が残り少なくなって思うことは、「すべてに感謝」です。皆様にそして長崎医療センターの医療と研究に御恩返しができればと考えております。八橋院長のスローガンは、「全員診療/全員リサーチ」です。私が心がけていることは、「1例から始まる臨床研究、同じ医療をやるなら臨床研究にしよう、未来に向けて研究の種を蒔こう!」です。





プロフェッショナル
を紹介します!!

Vol.1 大石景子さん

“放射線看護専門看護師“の第1期生（2022年度日本放射線看護学会にて認定が開始）に当院看護師の大石景子さんが合格されました。今後の活動目標等について伺いました。

Q 放射線看護専門看護師とは？

A Radiological Nursing：今年度初めての専門看護師が全国で3名誕生しました。役割は放射線事故・災害、放射線診療を受ける対象者とその家族へ水準の高い看護の提供とともに、職業被ばく低減の方策等、施設における体制を構築することとされています。

Q 放射線看護専門看護師をめざしたきっかけは何ですか？

A 放射線診療を受ける患者の看護に多く関わる中で、あれっ？っていう疑問を持つことが多くありました。それは、患者さんに対してもそうだし、看護スタッフの被ばくに関する印象や行動もそうで、そう感じたことと福島の放射線災害がきっかけですかね…。

Q 現在の仕事内容を教えてください！

A 放射線治療を受ける患者さんの看護が中心です。治療に対する不安や副作用への対応だけでなく、専門看護師として学習を深めたあとは患者にとって有益な治療となるのかどうか、最善の方法かどうかなど、患者の思いや身体状況を放射線治療医へ情報提供し、治療の方法についてディスカッションすることも多くなってきました。

Q 今後の抱負を教えてください。

A 一言でいうと放射線看護の基盤づくりです。看護師の職業被ばく、防護の問題では管理の大切さを伝えていくことや、放射線看護領域のエビデンスの構築です。放射線治療の副作用にしてもエビデンスのある標準的なケアが少ないので、放射線看護の基盤となるものを1つひとつ創り上げていくことが一番の課題だと考えています。



2年間を振り返って
～臨床研修終了報告～





2年間の初期臨床研修を終え、
医師として
それぞれが専門分野を定めて歩き始める
スタート地点に立ちました。



あっという間の２年間でした。各診療科それぞれで枚挙に暇がない程様々な体験をさせていただきました。あと２ヶ月で「研修」医の肩書きが取れると思うと少し怖さもありゾクゾクしておりますが、この経験を生かして精進して参ります。２年間、ご指導ありがとうございました。

巖水 慧



2年間大変充実した研修生活を送ることができました。熱心な先生方のご指導のもと、医師としても人としてもレベルアップできました。また周囲もやる気に満ちた同期や後輩が多く、共に大きく成長することができました。2年間ありがとうございました。

後藤 純寛



多くの方々に支えていただきながら、無事に研修を終えることができました。初めは不安と緊張の日々でしたが、この2年間でさまざまなことを経験してきました。この経験を糧により一層成長できるよう頑張ります。2年間ありがとうございました。

沖田 奈菜



2年前、医師国家試験には合格したものの、何もわからず採血すら怪しい状態から私の研修はスタートしました。本当に0から学ばさせて頂きました。この経験を糧に、これから更に医師として成長していきたいと思います。ありがとうございました。

佐藤 康人



最初はわからないことばかりで不安な気持ちで研修に臨みましたが、どの科でも先生方、コメディカルのスタッフの方々に手厚いご指導を頂き、学びの多い研修生活を送ることができました。2年間ありがとうございました。

朝長 純花



２年間お世話になりました。初期研修医としての２年間は大変楽しく、充実しておりあっという間であったなと感じております。来年は整形外科医として、上五島病院に勤務する予定です。また機会がございましたら宜しくお願い致します。

中村 樹



大村育ちの私は「地産地消」をモットーに、この2年間を駆け抜けました。不安で胸いっぱいの各科ローテイトも、見知った顔や以前よりお世話になっていた方々から優しく声をかけていただき、リラックスして研修を受けることができました。ありがとうございました。

角 遼



病院のたくさんの人に支えてもらい、医師として、人間として、成長できました。
2年間本当にありがとうございました。まだ成長半ばですが、ここで学んだことを忘れずに、地元飯塚で立派な医師になれるように頑張ります。

二宮 辰光



患者さんの病態だけでなく生活背景まで視点を向けて考えた総合診療科、初めての学会発表を経験した外科、救急対応の基本の「き」を学んだ救急救命科、心筋梗塞の患者さんの緊急カテで進路を決めた循環器内科‥振り返るときりがありませんが、医療センターでなければ今の自分はいなかったと思います。

中平 皓太



初期研修医として病棟管理や救急対応など多くの経験をさせて頂きました。先生方の熱心なご指導のお陰で大きく成長できたと感じております。今後もさらに精進していきたいと思います。2年間本当にありがとうございました。

馬場 あかね



初期研修を通じてCommonなものから難しい病態のものまで色々な症例を経験しました。どの診療科の先生方も教育熱心で、学ぶことが多かったです。疾患だけにとらわれず、患者さんやその家族にも配慮した医療を提供しており、本当の意味のEBMを経験することができました。

西浦 壮志



2年間大変お世話になりました。初めはとても大変でしたが、多くの方々の支えがあって無事研修を終えることができました。2年間あっという間でしたが、楽しく実りある研修をさせていただきました。本当にありがとうございました!

西浦 藍



初めて医療センターを見た時に「こんなに大きな病院でうまく働けるのか?」と並々ならぬ緊張感を覚えたのがまだ昨日のことのように感じます。2年間の研修を終えて、先生方やコメディカル関係者の方々のご指導のおかげで2年前よりも少しだけ医師として成長できたと思います。ありがとうございました。

鋸﨑 翔太



2年間は非常にあっという間でした。ご迷惑おかけすることが多々ありましたが、どの診療科でも優しく丁寧なご指導で挫けず頑張れました。初心忘れないように精進していく所存です。心より御礼申し上げます。

松尾 和哉



研修でお世話になった皆様、2年間ありがとうございました。4月から新しい土地で働くこととなり、これまで以上に責任が伴う立場になりますので、この2年間で学んだことを基盤にして頑張りたいと思います。

山領 優斗



2年間地元大村で研修することができて医師としても、1人の人間としても成長できたと思っています。プライベートでも結婚・出産と激動の2年間でありとても充実した日々を送ることができました。2年間お世話になりました。

田崎 海斗



いつも外来で、病棟で、手術室で、あるいは受付等で、大変お世話になっております。来年度からは上対馬病院へ赴任します。当院で勉強させていただいたことを存分に発揮してこようと思います。2年間本当にありがとうございました。

馬渡 萌



2年間、あっという間に過ぎてしまいました。同期や先生方、スタッフの皆様に支えられ、とてもいい環境で研修することができました。またいつか皆様に成長した姿をお見せできるよう新天地でも研鑽に励みます。

吉原 絹子



















賞状名	受賞者
最優秀研修医賞	巖水 慧
最優秀研修医賞	西浦 壮志
基本的臨床能力評価試験　最優秀賞	角 遼
OSCE最優秀賞	沖田 奈菜
OSCE2位	朝長 純花
OSCE3位	西浦 壮志
Doctor of the Year指導医賞	永井 友基
Doctor of the Year指導医賞	増田 幸子







長崎医療センター第 51 期研修医の皆さん、研修修了おめでとうございます。
これからの 10 年間は医師として人としてステップアップしてゆく重要な時期です。
それぞれの目標を定め、誠実さと熱意を持ってさらに研鑽を積んで下さい。長崎医療センターでの 2 年間の経験、同期との絆を大切にこれからもがんばって下さい。
先生方のご活躍を楽しみにしています。

臨床研修管理委員長　長岡 進矢

定年退職を迎えて



栄養管理室長
桑原 淳子

昭和58年に国立大分病院（現大分医療センター）に入職して以降、栄養部門の様々な変革を経験し、多くの皆様との出会いにより支えられ勤めることができました。最後3年間の長崎医療センターでは、栄養管理室のスタッフに恵まれ楽しく、他部署の皆様の温かいお言葉やご協力もいただきましたことを心より感謝し、御礼申し上げます。

長崎医療センターの今後益々のご発展と皆様のご健勝を祈念しています。



看護師
鶴屋 恵子

20数年前、私は当院の看護師募集の広告をみて直接看護部へ電話し作文と面接で採用させていただきました。当時は、独身でしたので日勤が0時過ぎての帰りは、長田のリンガーハットでチャンメン（ちゃんぽん）を好きでよく食べて帰ってました。

また、病院の近くに当時あったジョイフルで準夜明けに夜勤者と明け方までおしゃべりして楽しかった思い出があります。その後、結婚できて当院で産んだ時は39歳で双子だったため大勢の先生方がいて下さって安心だったのですが産婦人科病棟の端から端まで聞こえるくらい陣痛の痛みで叫びまくったのを今も思うと恥ずかしく思い出します。

当院で勤めるには主人の両親の協力無しでは勤められませんでした。とても感謝しています。ここに就職された皆様も大変な事も多いかと思いますが、適度にストレス発散して楽しみも味わい自然に笑顔が患者さんに向けられますように。

皆様、定年まで勤めさせていただきありがとうございました。

TOPICS

医師人事異動（転出）

医療職（一）医師

乳腺内分泌外科部長	前田 茂人
脳神経外科医長	川原 一郎
心臓血管外科医長	松隈 誠司
外科医師	岡本 辰哉
外科医師	三好 敬之
整形外科医師	中川 皓一朗
形成外科医師	吉野 健太郎
耳鼻いんこう科医師	松本 浩平
耳鼻いんこう科医師	小野 晋太郎
血液内科医師	桐野 祐子
呼吸器内科医師	井手口 周平
呼吸器内科医師	森 麻耶子
内分泌・代謝内科医師	渡部 太郎
小児科医師	種岡 飛翔
小児科医師	島崎 敦
皮膚科医師	冨野 千愛
麻酔科医師	卜部 繁彦
麻酔科医師	石岡 泰知

医療職（一）レジデント・専攻医

内分泌・代謝内科レジデント	笹村 明香里
内分泌・代謝内科専攻医	中村 公隆
総合診療科専攻医	阿部 千鶴
産婦人科レジデント	本多 明日美
救急科専攻医	梅木 悠希
消化器内科専攻医	若松 彩
呼吸器内科専攻医	佐藤 雄二
外科レジデント	藤瀬 悠太
脳神経内科専攻医	辻野 耕平
耳鼻咽喉科レジデント	松井 彰子
消化器内科専攻医	濱﨑 俊輔
肝臓内科専攻医	杉尾 小百合
泌尿器科レジデント	本多 弘幸
腎臓内科専攻医	池見 悠太
病理診断科専攻医	佐藤 俊輔

TOPICS

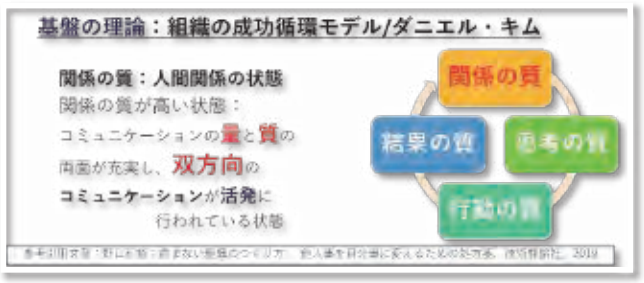
国立病院機構QC活動　全国優秀賞受賞

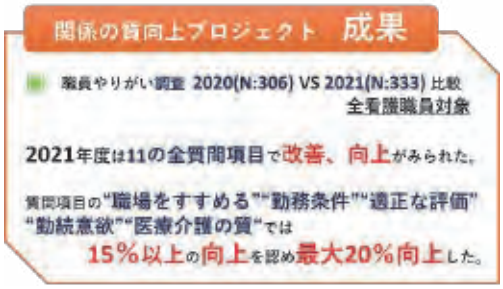
関係の質向上プロジェクトリーダー　看護師長　田中 圭

その人がその人らしく、お互いをリスペクトする 元気な職場をつくる！！

2022年度、国立病院機構QC活動で〝その人がその人らしく、お互いをリスペクトする元気な職場をつくる！！〟の活動が全国優秀賞を受賞致しました。

プロジェクト名：関係の質向上プロジェクト
目的：看護職員間の〝関係の質〟向上を図ることで、信頼しあえるチームを作り、職務満足度を充実させ、定着して働ける組織をつくること









今後も看護職員ひとりひとりがやりがいを持ち、誰もが働きやすい職場環境をつくるために当プロジェクトの活動を続けていきたいと思います。看護職員がいきいきと働くことが、ひいては看護の質を高めていくことへつながると信じています。

第8回
がんフォーラムを開催しました。

本年度のがんフォーラムのテーマは「ここまで進歩した肺がんの治療」としました。がんフォーラムではがん医療についての講演はもちろん、骨密度測定、血管年齢測定等、その他にもさまざまなブースを設置し、今回は当院、臨床研究センター長、田川医師が学会長の日本肺癌学会九州支部学術集会・日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会の市民公開講座とリンクする形で開催しました。

コロナ禍の中、想定を上回る方にご参加いただきました。これからも県民の皆様へ、さまざまな公開講座を企画していきたいと思っております。

がんフォーラム運営委員会
がん看護専門看護師　田中 圭

















院内さるく

総合情報センター



わたしたちの役割は、①診療情報の共有伝達（HIS）の管理と支援、②国立病院機構総合情報ネットワーク（HOSPnet）の運用支援です。

① HIS：当院のHISにおいては、電子カルテシステムを中心に約50の部門システムを連携させ最適に調整します。

② HOSPnet：インターネットに繋がるネットワークで掲示板・メイル・オンライン会議で職員間の情報伝達のサポートをします。

最近の課題はサイバー攻撃対応で、すべてのソリューションの最新化を目指しますが、利用者の情報リテラシーを高めることが特に重要です。情報の管理方法は年々厳しくなりますが、その対応に困惑したら私たちが適切な対応方法をご提案いたします。

看護部だより Vol.49

4B病棟

4B病棟（成育医療センター）は総合周産期母子医療センターです。また、赤ちゃんに優しい病院（Baby Friendly Hospital）の認定を受けており、母子の絆づくりを目的とした母乳育児の支援を行っています。加え、婦人科疾患、特にがん診療拠点病院として悪性腫瘍を有する患者さんの専門的治療を行っています。女性のライフサイクルを支える役割として、細やかな看護につとめています。

特徴1

県下における周産期の「最後の砦」として、母児のいのちを守るため日々奮闘！

- 分娩件数は年間約600件（約200件が帝王切開）
- 母体搬送は年間約150件（離島からヘリコプターでの緊急搬送も受入）
- COVID－19陽性妊婦の受け入れ、分娩・産後の管理







特徴2

婦人科は手術や化学療法、放射線治療、緩和ケアなど幅広い婦人患者さんの苦痛や不安を軽減し、退院後も見据えた支援ができるよう、早期から多職種カンファレンスを定期的に実施。



（カンファレンスの様子）

長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.411

医療相談支援センターからのお知らせ

ゴールデンウイーク期間（5月3日～5月7日）の診療支援サービス

現在、先生方が診療されている患者さんで、ゴールデンウィーク期間中に急性増悪をきたすと予測される患者さんなどを、あらかじめ地域医療連携室へご紹介ください。各科と調整のうえ支援態勢を整えさせていただきます。

急患は従来どおり24時間体制で対応いたしますが、このような患者さんをあらかじめご紹介いただくことで安心かつ円滑な診療ができると考えられます。

診療予約申し込み先

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 地域医療連携室

TEL：0120－731（ながさきいりょう）－062（おおむらに）
FAX：0120－731（ながさきいりょう）－063（おおむらさ）

申込には診療情報提供書が必要です。先生方が通常お使いの診療情報提供書をご利用ください。
その際、余白に「GW」とご記入ください。
内容に応じまして、対応をご連絡いたします。



申込期間：4月21日（金）12時まで受け付けます。
それ以降は、従来の救急対応となります。
TEL：0957-52-3121㈹

理　念
高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命
長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する